

P3-46.**マイクロサージャリー初学者に対する練習材料としての貝割れ大根の有用性**

(形成外科学)

○岡田 宇広、松村 一、柴田 大
今井龍太郎、渡辺 克益

【目的】 今日までに報告されているガーゼ、シリコンチューブ、手羽先などの各種材料と比べ、より安価で入手しやすい身近な練習素材がないかを検討した。エノキタケ、素麺、イカ神経、貝割れ大根などについて検討した結果、コストの低さや扱いやすさから貝割れ大根が有用であると思われた。当初、貝割れ大根は極めて裂け易く吻合練習に適さないと思われたが、熱湯へ通すことで縫合可能となり、シリコンチューブと比較してもその非常に裂けやすい点が、マイクロサージャリー初学者にとって atraumatic な操作を修得する上で効果があると考えられた。

実際に初学者に対して貝割れ大根を用いて練習を行い、有効性が認められるかを検討した。

【方法】 初学者9名を対象とし、貝割れ大根、シリコンチューブ、摘出したラット坐骨神経で練習を行う3グループに分けて吻合練習を行った。

顕微鏡下の運針法に関してガーゼを用いた指導を行った後、摘出したラット坐骨神経で初回試験を行った。続いてそれぞれのグループで担当の素材による練習を合計1時間半行い、合間に試験と指導を行った。最後に最終試験を摘出したラット坐骨神経で行い評価した。

試験は10分間とし、採点項目は、バイト、縫合間隔、結紮の強さ、糸の取り回し、縫合数の5項目(合計10点満点)で評価した。

【結果】 各グループにおける点数は、練習時間に伴い上昇した。しかしながら、最終試験において、貝割れ大根グループは素材の変更による点数の低下がみられなかったが、シリコングループでは低下が認められた。

【考察】 貝割れ大根は、畜産物や実験動物と異なり保存場所や準備に負担がなく、医局内の冷蔵庫などに保存いつでも練習可能であり、臨床業務の多忙性に伴う練習機会の減少を補う意味で効果的であった。また、既存の練習材料と比較して atraumatic な操作や高い集中力を求められる点から、特に神経縫合の練習材

料として有用性が高いと思われた。

P3-47.**日本の職域における組織公平性 (Organizational justice) と精神健康度の関連の検討**

(専攻生・公衆衛生学)

○林 俊夫

(公衆衛生学)

小田切優子、大谷由美子、下光 輝一

【背景】 海外の産業保健研究において、組織公平性は心血管疾患、メンタルヘルス疾患、精神健康度等に関連する心理社会的要因であることが示されている。職場の組織公平性を高める介入はメンタルヘルスの一次予防対策として有効な可能性が高いが、日本においては組織公平性と精神健康度との関連についてまだ十分な検討はなされていない。

【目的】 日本の職域における組織公平性と精神健康度との関連を検討する

【対象・方法】 某製造業の事業所に就業している全従業員1,927名を調査対象とした。社内イントラネットもしくは質問紙を使用して、精神健康度に関してはK6質問票日本語版、組織公平性に関してはColquitt (2001) による組織公平性調査票の日本語版、組織コミットメント、職場満足、仕事意欲、メンタリング、組織市民行動 (OCB)、上司への信頼度等に関して調査を行った。

【結果】 調査対象者のうち1,865名より回答が得られた。(回答率96.8%、平均年齢39.5歳、女性率9.6%) このうちデータ欠損の無い1804名を解析対象とし、構造方程式モデリングにより組織公平性と精神健康度の因果関係モデルを作成し検討した。解析にはAmos ver5.0を用いた。検討したモデルの適合度はCFI=0.886、RMSEA=0.073と良好であった。組織公平性は直接的に、及び上司への信頼を介して間接的に組織風土の形成に関連していた。組織風土は職場満足感を高め、組織コミットメントを介して精神健康度に影響を与えていた。

【結論】 日本の職域における検討でも組織公平性は精神健康度に影響を与えており、組織公平性を高める介入は職場のメンタルヘルス一次予防対策として有効である可能性が示唆された。